全大教事務職員アンケート（2007 年 12 月集約）

組合や法人などに対する課題や提案（自由記入）

◎事務局長が変わるたびに人事のやり方も含め色々なことが変えられ、安心して働けない。文部科学省の人事で来る幹部職員は天下り以外の何ものでもなく、広く現状を訴えて止めさせるべき。組合も特定の政党に毒された人が多く、入りたくても全く期待が持てない。

◎競争原理を導入し外部資金を獲得することも必要ではあるが、一方で本来大学に求められているはずの学生に対する教育内容の充実、そこから生まれる学生たちの学問に対する探求心の向上、あるいは、大学が背負っていたはずの教員個々に与えられていた学問・研究の自由（拘束されない・時間に縛られない）、そこから生まれる文化への貢献が全く見えないのはなぜだろうか。競争心を燃やさせるのは結構だが、人間余裕がなければ良い知恵・発想は生まれない。度が過ぎると大学自体・教職員が疲弊する。大学の幹部職員はそんなことはかまってはいられない。何か実績を作らないと言うかもしれんが、そのこと自体がおごりに見える。大黒柱がない、この目的を達成するためにというものが見えない。みんな勝手な方向に向いている。何のために、どの部署が、どう協力して、何をするべきかの統率がない。いかに良い教育・研究環境を提供することに腐心すべきだ。今、若い事務系職員の活気のなさは深刻な状況に思える。働きがいを見いだせないでいるように感じる。しかし、そんな若い人たちに対して日々接し何かを与えたい。出来れば将来に希望を持てるような職場だと思ってくれるように。我々にはその責任がある。

◎組合はもっと広く加入者を集める方策が必要だと思う。法人化したことで労働三権も認められるようになっているわけで、これを行使できる様々な力を蓄えるべきだと思う。法人化して４年目になるが、まだ法人と組合が対等の立場になったとは感じられない。真に開かれた職場を作るために進んでいくべきと考える。

◎組合がどんな活動をしているのか、もっとＰＲすべき。新聞、ホームページなど。

◎サービス残業は職員にとって一番身近な法令違反であり、職員の労働に対するモチベーションの低下及びモラルの低下につながりかねないため改善していただきたい。残業について正確な時間数がわからないと、まともな業務改善につながらないと考える。

◎外部資金の獲得状況を反映させた人員配分を制度化してほしい。この制度がないと、外部資金を獲得すればするほど業務量が増え続け、外部資金獲得に協力する意欲を大きく損なうことにつながる。

◎給与面での改善を望む。また、残業した分は何らかの形で評価してほしい。

◎係員思考の係長クラスが多すぎると思う。給料の多寡についてはともかくとして、若くても能力のある人間を係長とすべきだ。

◎もう公務員ではないのだから、そろそろ１人１人が本気で大学経営の事を考えた方がよいと思います。本当に夕張市のようになってしまいます。